

事業者排出量削減報告書

（あて先）京都府知事			
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名）	
福知山市長田野町1丁目29番地		株式会社 浅田可鍛鋳鉄所	代表取締役 浅田 章介
		電話 0773 - 27 - 2058	

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	輸送用機械部品製造（日本産業分類：2351）
-------------	------------------------

該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））
-----------	--

計画期間	平成 18年 4月 ～ 平成 20年 3月
------	-----------------------

基本方針	ISO14001環境マネジメントシステムを導入し、その環境方針により、資源・エネルギーの節減を推進し、地球温暖化防止に努めるよう活動している
------	--

推進体制	専務取締役を環境管理責任者とし、環境マネジメントシステムにより年度ごとの計画を推進している
------	---

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	18～19	設備	コップレッサのバーナ化によりその使用電力量の10%低減（18年は具体案の検討のみ）
	19	工程	工程内不良の低減（前年度50%減）

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （17）年度 （二酸化炭素換算（t））	目標年度（計画） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （計画） （%）	報告年度（実績） （18）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （実績） （%）
	A 事業所等排出区分	10,040 t	10,510 t	4.7 %	9,967.1 t	-0.7 %
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%
	C その他排出区分	t	t	%	t	%
	排出合計	*1 10,040 t	*2 10,510 t	4.7 %	*4 9,967.1 t	-0.7 %

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算（t））		取組量等		（二酸化炭素換算（t））	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	削減量等合計			*3	t			*5	t

差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）	報告年度（実績）	削減率（実績）
	1 10,040 t	()2-(*)3 10,510 t	4.7%	(*)4-(*)5 9,967.1 t	-0.7%

特記事項 温室効果ガス総量は、生産量が上半期は計画通り推移、下半期で落ち込んだ為、実質7.3%の削減となった。その中で売上が3.6%増となり、売上で見た原単位は6.3%の削減ができた。その他、基準年度（17年）の下半期（その後半）から操業を始めた三和工場（福知山市三和町）で、本社で鋳造した製品の加工を開始した。この新工場では、暖房用の灯油以外は全てCO2排出係数の低い電気エネルギーを使うこととしている。また、ここで使うコップレッサも1ライン1台と小型のオイルタイプを使用し、温室効果ガスの抑制に努めている

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 （例）グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO2排出量、省エネ製品開発など他の者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。